

例年より早い開幕で60杯超えも 外房もスルメイカのシーズンへ!

外房勝浦川津港出船 撮影・本誌編集部

★この日は潮が流れず苦戦。前半は底で単発、後半は宙層でダブル、トリプルもあり鴨川市の山下さんが16杯でトップ

★スルメはやっばり船上干し! 梅雨明けしたらガンガン干そう



▲電動タダ巻きで探っていると100メートル前後でズンときた!



▲まだ下にもいる!



▲竿先に出る触りを見て合わせていく釣りだ



▲イカは大型も多くズッシリとした重量感



◎ポイントは勝浦沖の水深130メートル前後。広く流すスタイルで群れを探っていく

◀ブラヅノ18センチの直結仕掛けがメイン。ツノ数は8~10本程度



▲オマツリ防止のため再投入も投入器に入れて行う

と、ブルブルとサバからちよっかいがある。これはスルーしてさらに落とし込んで誘いを入れるとガツンとくる。サバとは異なるズッシリ感はスルメイカだ。
サバの群れの中からスルメを探し出していく感覚がゲーム性もあってかなり面白い。まだ釣果にムラはあるがこの夏、外房の大注目ターゲットに推したい!
(詳細は56ページ参照)

外房勝浦沖でスルメイカが開幕。今シーズンは例年よりも早く釣れ出し、すでに60杯超えの釣果も記録して期待十分の幕開けとなった。
「サバの反応の中からスルメを探っていく感じの釣りです」とは取材した勝浦川津港、不動丸の吉清晃朗船長。
釣れるスルメイカはすでに胴長25センチを超える大型が多く、ブラヅノは18センチを使用する。水深130メートル、サバ反応の中に直結仕掛けを通過させ



▲ブラヅノ18センチならプランコでもサバに飲み込まれにくい



▶プランコ仕掛けはしっかり誘ってプランコを踊らせる
▼仲乗りさんはプランコで通した



●外房勝浦川津港・不動丸 吉清 晃朗船長